

卒業

岡本  
卓也

人 物

佐藤哲郎（18） 高校三年生

上林あかり（18） 高校三年生

三島幸太朗（18） 高校三年生

戸松龍平（20） 建設作業員

浜田雅子（18） 高校三年生

○軽自動車中（夕）

運転席に佐藤哲郎（18）、助手席に

三島幸太朗（18）が腰掛け十メートル

ルほど先の高校の門から帰宅する学生

達を眺めている。ギャル風の女子高生

が3人出てくる。三島がチラシを手に

車を降り女子達に近づいていく。

三島「卒業イベントやるんや」

女子B「え、いつ、どこで？」

三島「徳山のバーで明後日夜19時から」

女子B「そんな田舎まで行かれへんわ」

三島「田舎？別に変われへんやるこの辺と」

女子C「一緒にせえへんといて徳山なんかと」

三島「腹立つな、調子乗んなよお前」

突然後方から大きな重低音を響かせた

いかついエステイマ車がやってくる。

運転席から金髪スウェット姿の戸松龍

平（20）が三島を睨んでいる。

戸松「おい綾子、なんやこいつ」

三島「いや、違うんです。あの、卒業イベン

トの告知で」

怯えながらチラシを戸松に渡す三島。

戸松「とりあえず、お前車乗れや」

三島「スンマセン、それは勘弁して下さい」

女子▶「龍くんもうええわ。はよ遊びいこ」

女子達を乗せ大きなエンジン音を立て

エステイマは去っていく。とぼとぼと

車に戻ってくる三島。

佐藤「どうやった？」

三島「あ、皆な、イベント来てくれるって」

手を三島に差し出す佐藤。

佐藤「チケット代は？」

気まずそうに俯く三島。

○ライブハウス中（夜）

多くの高校生でごった返すフロア。入

り口に卒業イベントと書かれた看板。

佐藤と三島が入ってくる。

三島「結構客来とるな」

佐藤が横を向くと少し先で上林あかり

(18)が浜田雅子(18)の隣でステージを見つめ小さくリズムをとっている。赤や青や緑に変わるステージの照明があかねの顔を照らす。あかね達に近づく佐藤と三島。

三島「赤城高校の人ですか？」

雅子「はい」

三島「明日、俺らも出る卒業イベントあるんですけど来ませんか？」

チラシを二人に渡す三島。

雅子「考えときます。いこ、あかね」

あかね「あ、うん」

そう言っつて佐藤達から離れていく二人  
三島「あの子、めっちゃ可愛いな」

あかねの後ろ姿を目で追う佐藤。

○同外(夜)

車に乗り込む佐藤と三島。突然何かを  
思い出した様子で佐藤は車を降りる。

○同中（夜）

戻ってきた佐藤はあかねを見つけ話しかける。佐藤の話の話を聞くにつれ、あかねの表情は笑顔に変わっていく。

○車中（夜）

運転しながら三島に熱心に語る佐藤。

三島「いや、ちよつとお前、説明早すぎてよく分からんは。要は先輩から一年の時に紹介されたメル友がさっきのあかねちゃんつてこと？で、顔見たのは今日が初めてで」

佐藤「そう、先輩からは可愛いらしいつてことだけで、写真もなしにメアドだけ教えてもらつて。でもそんな時は三四回やり取りしただけで終わってしまった。たまたまさつきもう一人の子があの子のこと、あかねつて呼んだ時、もしかしてあのあかねちゃんつて思つて。この辺りの子やつて聞いてたし」

三島「2年の時を経て、運命のご対面が今夜

やっってきたと。でももう遅いやろ」

佐藤「は？」

三島「いや、お前は来週から東京出て大学生になるわけやん。あの子は大阪に出て美容師やろ、さすがにもう今からはないって」

佐藤「分からんやろそんなん！明日の卒業イベントも来てくれる言うてたし」

言い合いを続ける二人。

○BAR ジール中（夜）

たくさんの若者がフロアで騒いでいる。ステージでは佐藤がDJ機材の前で選曲している。フロアで三島、あかね、雅子が話している。

三島「で、今あかねちゃんは彼氏おるん？」

あかね「さあ、どっちでしょう？」

デレデレした顔であかねの肩に手を触れる三島。ステージ上からそれをイライラした表情で見ている佐藤。

雅子「あんたその辺にしときや」

三島「なんや、ええやんけ」

突然あかねの側に溝口旬（18）がや  
つてきて乱暴に手を掴み出口に連れて  
行こうとする。抵抗するあかね。佐藤  
は慌ててステージを降りあかねを追い  
かける。途中佐藤の肘が勢い良く誰か  
の顔面に当たる。振り返ると顔を押さ  
えた戸松が佐藤を睨み殴りかかってく  
る。殴り飛ばされた佐藤を三島が受け  
止める。三島に気づき戸松。

戸松「お前、昨日の！」

出口に向かって走り出す三島と佐藤。  
あかねも溝口を振り払い外に逃げる。

○車中（夜）

運転席に佐藤、助手席にあかね、後ろ  
に三島が座り車は深夜の道路を走る。

三島「別に無理して言わんでええけど」

佐藤「でも、あいつつて確か、徳高の溝口と  
かいうやつちやつたっけ？知り合いなん？」



三島「もしかして、彼氏？」

あかね「彼氏ではないんやけど」

そう言って黙るあかね。

佐藤「あかねちゃん、家まで送ってくわ」

あかね「ありがとう」

三島「にしてもまじこわかったなー、今度は

まじでしばかれると思ったわ」

笑うあかね。佐藤も笑う。

×××

寢息を立てぐっすり眠っている三島。

あかね「佐藤君は何で東京なん？」

佐藤「え？」

あかね「大学なんて京都にも大阪にも一杯あ

るやん。東京まで行く人あんまおらんから」

佐藤「ここからできるだけ遠くに離れてみた

かったでかな」

あかね「なんで？」

佐藤「関西やったらすぐまた皆んなに会える

けど、東京やったらそんな簡単にもう会え

へんやろ」

あかね「なんで？簡単に会えた方が良くない」

佐藤「俺は会えへん方がいいかな。田舎で幼

稚園からずっと同じようなメンバーでつる

んできたし、もう十分って感じ」

あかね「ふーん、そんなもんかなー」

窓の向こうをじっと見つめるあかね。

あかね「でも東京行ってみたいなー私も。修

学旅行以来行ったことないし」

佐藤「おいでーや。〇△とか来てくれたら、

それまで色々調べて俺案内するし」

あかね「ほんまに、じゃーいこー」

嬉しそうに笑うあかね。暫くの沈黙。

だんだん憂鬱な表情になるあかね。

あかね「佐藤君はやっぱり東京か、」

あかねの様子にドギマギし戸惑う佐藤。

沈黙が続く。意を決した表情で佐藤。

佐藤「俺、東京に行っても、その、」

窓の外を指差し突然声を上げるあかね。

あかね「ローソン」

佐藤「は？」

あかね「帰る前にローソン寄っていい？」  
佐藤「あ、うん、ええで」

駐車場に車を止める佐藤。

○ローソン前（明け方）

店の前であかねを待つ佐藤。あかねが  
携帯画面をじっと見ながら店から出て  
くる。佐藤に突然あかねが声をかける  
あかね「佐藤君、今日はありがとうね」

佐藤「あ、うん」

あかね「家ここから近いし歩いて帰るわ」

佐藤「え、家の前まで送ってくけど」

あかね「家の周り道小さいし、あんま音立て  
ると近所の人に怒られるし」

佐藤「あ、そうなんや」

あかね「三島君にもよろしく言うと言って」

佐藤「また、連絡していい？」

あかね「うん、私からも連絡するわ」

手を振り去っていくあかね。あかねの

後ろ姿を見つめ続ける佐藤。

○車中（朝）

運転席に戻ってくる佐藤。ラジオを小さな音でつけ正面の道路を眺める。ラジオからは陽気な50年代のオールディーズ音楽が流れてくる。微笑を浮かべ曲に聴き入る佐藤。突然正面の道路を右手から一台の車が通りすぎる。助手席に座り楽しそうに笑うあかねと運転席の溝口の姿が一瞬見える。三島が突然目を覚まし、

三島 「あれ？今何時？あかねちゃんは？」

答えず黙っている佐藤。

三島 「俺ちよつと起きとつたんやけど、あかねちゃん、今度東京来るとか言つとらんかった？まだ可能性あるかもしれないやん」

佐藤 「そうやな」

佐藤は車のエンジンをかけ、ラジオの音量を少し大きくすると、勢い良くブレーキを踏む。車の中には陽気なオールディーズミュージックが響き続ける